

Guangzhou 2010 Asian Para Games 審判参加報告書

国際審判員 田畑喜彦(愛知県ボート協会)

2010年(平成22年)12月13日～15日まで中国広東省広州にて開催された Guangzhou 2010 Asian Para Games に審判として参加しましたので、ここに報告させていただきます。

まず、報告にあたりこの機会を与えていただいた日本ボート協会関係者のみなさまに深く感謝申し上げます。

さて、Guangzhou 2010 Asian Para Games は11月に開催された Asian Games(アジア競技大会)に引き続き開催されたものであるが、ボート競技が採用されたのは今大会が初めてであり、その意義は深く FISA からは Technical Delegate の Mike Tanner、Classifier の Shirley Stokes 他2名が参加するものでした。

この大会には日本からは岩尾弘敏氏(北海道ボート協会)、佐藤裕氏(東京都ボート協会)ならびに私の三名が審判として参加しました。

大会会場は、本年7月アジアジュニア選手権、11月アジア競技大会が開催された Guangdong International Rowing Centre(広東国際漕艇場)であり、施設概要は先の大会に参加された大泉氏(福島県ボート協会)ならびに隈元氏(神奈川県ボート協会)により報告されているため、ここでは詳細は割愛させていただき、特に Adaptive Rowing に関する内容を報告させていただきます。

1. コースについて

今回の大会は前述したようにアジア競技大会で使用されたコースの距離を1,000mに短縮し開催された。発艇はライトとブザー、艇揃えはスターティング・システムによる機械式である。判定塔には発艇と連動したフォトフィニッシュシステムが装備され、Representative Judge at the Finish(主席判定長)はモニタの前に座り、着順を決定するというシステムであった。



写真-1 判定塔内の状況

2. 大会運営について

アジアで初めて開催される Adaptive Rowing であり、今回参加する審判員にも Adaptive Rowing の経験者が2名しかいなかった。このような状況から、大会前日には Adaptive Rowing Classification Guidelines ならびに Adaptive Rowing Regulations の詳細な説明がされた。

① Classification

FISA の Adaptive Sport Class には LTA、TA、AS、ID の4種がありそれぞれの意味は、使用可能な部所を表したものとなっている。(L:Legs、T:Trunks、A:Arms、S:Shoulders、但し ID:Intellectual Disability、知的障がい者)

- a) LTA は競漕時にスライディングシートを使い、最も裕度大きい。また、漕手の半分まで Visual Impairment(弱視者)を含むことができる。
- b) TA は下肢に何らかの障がいがある



写真-2 ASW1Xのシート、背もたれ力漕する日本クルー(品田)

るため、腰と肩および上肢を使用する。

c) AS は肩と上肢のみであり、背もたれの付いたシートに着座して競技を行う。

これら Sport Class は ID を除き FISA により指名された Medical Classifier と Technical Classifier により認定される。

また、漕手は認定の状況により New(N)、Confirmed(C)、Review(R)の3種に分けられる。このうち FISA 主催のレースに出場できるのは FISA International Classification Panel により認定される C および R クラスのみである。

今回開催された種目は LTAMix4+、TAMix2X、ASM1X、ASW1X の4種目であった。

② Regulations

Adaptive Rowing におけるルールおよび競技運営方法のうち、特徴的なものは以下のとおりである。

- a) LTA のカテゴリーには漕手2名までの Visual Impairment(弱視者)を含むことができるが、公平を期すため対象者は大会期間中水上での練習時を含め完全に光を遮断するアイマスク着用が義務付けられ、出艇・帰艇桟橋では監視員によるチェックが行われた。
- b) 発艇システムはライトとブザーであるが、LTA のカテゴリーでは発艇員はロールコール後 Red Light 点灯と同時に「Red Light」と発すること、また、主審はレースが正常に終了した際に白旗を揚げると同時に「White Flag」と発する。
- c) TA と AS のカテゴリーではストラップが用いられるが、その幅は 50mm 以上で伸び縮みしないもの、色はユニフォームと異なり明らかに判別できるもの、緊急時には容易に着脱できるもの等の性能が要求される。
- d) スタートのポンツーンには Classifier が位置取り、ストラップ、アイマスク等を確認した後ロールコールを開始した。またレース中はコース横を Classifier が伴走し、正常にレースが行われた際には主審に合図を送り(緑の旗を掲揚)、主審は Classifier からの合図を確認した後、白旗および「White Flag」と発することとなる。特に AS カテゴリーでは胸の位置のストラップが厳格に規定されており、胸より下が背もたれと密着されているかという点が要求される。



写真-3 LTAMix4+予選発艇前日本クルー
ポンツーン上では FISA Classifier がチェック

3. 大会概要について

① 参加クルー

今回の Asian Para Games はボート競技が採用された最初の大会ということもあり、参加国(地域)は5カ国であり、4種のクラスにそれぞれ4クルーと、他の協議に比べるとさびしい状況であった。4年後にアジア競技大会を開催する韓国審判の Han さんは韓国でもボート競技を開催すると約束していた。次回大会には多くの国・地域の参加が望まれる。

種目	参加国(地域)			
ASW1X	CHN	HKG	JPN	KOR
ASM1X	CHN	HKG	JPN	KOR
TAMix2X	CHN	HKG	JPN	MAL
LTAMix4+	CHN	HKG	JPN	KOR

② 参加審判

今回参加した国際審判員は以下の13名であった。

1	SIU Kin Wah(President of Jury:HKG)	1228
2	ZHOU Xuejun(CHN)	1356
3	XIE Degang(CHN)	1123
4	NIU Yun(CHN)	1542
5	NG See Hung(HKG)	1369
6	MACHDALE NA(INA)	1293
7	MUKHERJI Romit(IND)	1539
8	YADAV Smita(IND)	1394
9	SATO Yutaka(JPN)	1374
10	TABATA Yoshihiko(JPN)	1265
11	IWAO Hirotoshi(JPN)	1476
12	HAN Sang Hoon(KOR)	1370
13	OMAR Raihan(SIN)	1555



写真-4 参加審判団(NTO 含む)

③ 国際審判員数

今回の参加審判国における国際審判資格保有者数を確認したところ以下のとおり。
中国 10 名、インド 11 名、香港 4 名、韓国 3 名、日本 13 名

日本はアジア最大の審判員数を擁するが、中国、インドの急増ぶりが著しい。韓国は最年少が今回参加した Han さんであり、あとの二人は数年後に定年になる。今後各種国際大会開催を予定しているだけに国際審判員養成が急務である。

4. 審判業務について

当初競技は 13 日予選、15 日決勝の予定であった。しかし 13 日競技終了後の天気予報によれば、15 日は気温の低下(11~17℃)と、降雨を伴う風速が 15m/s になるとの事であった。このため 13 日競技終了後のチームマネージャミーティングで主催者側から決勝の繰上げが提案された。一部のチームは障がい者競技が故に体力回復に時間を要することから、連日の競技に難色を示す向きもあったが、決勝が開催されないことを勘案し、次善の策ということで各チームの了解が得られ 14 日に決勝が開催されることとなった。

実際、15 日は天気予報通りでありコースコンディションを確認したわけではないが、宿舎付近の天候は荒れ模様であり、正しい判断であった。

審判業務における私の担当は 13 日 Umpire4、14 日 Representative Judge at the Finish であった。13 日のレースは特に問題なく終了した。14 日の決勝では 2 位で決勝線を通過した韓国 ASMIX の艇重量不足があったため、この件に関して報告する。

① 状況

11:15 発艇の ASMIX 決勝、決勝線は CHN、KOR、JPN、HKG の順で通過。主審白旗を確認し着順表を作成。Medalist List に署名した(表彰式は 12:10 予定)。

その後 Responsible Control Commission の Ng See Hung(HKG)より疑わしい件があるので着順表は保留するよう無線連絡が入り、判定が下るのを待った。その後再度着順表を作成し終えたのは 12:15 であった。

この間、Control Commission では FISA ルールに則り、最初の軽量、スケールの較正、二度目の軽量を選手立会いの下実施し、最少重量(24kg)を 1.1kg 下回ったことを確認した。しかし、計量表へのサインを選手は行ったがコーチが拒んだため、このような時間を要することとなった(アジアジュニアで報告された較正用の錘が軽すぎるという問題点は改善され、20kg が用意されていた)。



写真-5 判定塔内スタッフ(NTO 含む)

② 判断

大幅に艇が重量を下回ったのは、韓国クルーがストラップ、シートマット、ストラップ周りのタオルを含め予備計量を行ったためであり、この際には中国 NTO がこれらの簡単に取り外すことができるようなものも含めてもよいというような発言があったらしい。これらをすべて取り外したところ大幅に規定重量を下回ったため、韓国クルーは最下位となり、日本・香港が繰り上がる結果となった(公式記録上韓国は **Relegated**)。

なお、大会前に国際審判に対して行われた **Regulations** の説明では、これらは艇重量に含めないことは説明済みであった。

③ Board of Jury

韓国クルーは提訴を行い、**Board of Jury** による関係者への聞き取り調査および協議が行われた。焦点は上記付属品がしっかりと固定されているものであるかどうか「**shall be firmly fastened**」であり、韓国側はこれら付属品を含めるか否かがルールブックに厳格に規定されていないと主張したが、**Board of Jury** は最終的に韓国の提訴を却下した。

なお、表彰式はこの結論が下される前に終了した。



写真-6 パーティ会場への凱旋



写真-7 メダル受賞後の日本選手団と関係者
(一部の方のみですみません)

5. その他

① 開会式

アジア競技大会の開会式は日本国内のテレビでも放映されたため、目にした人も多いと思う。今回幸運にも **Para Games** の開会式に参加する機会を得ることができた。会場はアジア競技大会ほどのスタジアムではないとの事であったが、広東体育技術学院内にある **Aoti Sports Centre** は国立競技場よりも大きなスケールであり、10万人は優に収容できる立派な施設であった。

各種マスゲームには全体を貫くストーリー性があり、特筆すべきは500名を超

える参加者すべてが広東省に在住する何らかの障がいを持った人たちということであった。

光と花火と LED ライトをふんだんに使った演出であり、国威発揚の場と位置づけている様子が伺えた。

② Accommodation

a) ホテル

今回用意されたホテルは競技終了後に分譲される「団地」とのことであった。日本から参加した我々3名にあてがわれたのは、ベッドルームを3部屋有し、床面積



写真-8 開会式における日本選手団の入場

150㎡を超えるサイズの1戸であった。大会役員は同区画内のマンションおよそ10棟に分宿していたが、選手団は隣接する別区画(100棟くらいはあったのでしょうか?)に滞在していた。中国はまだマンションへの投機ブームが続いているとも聞くが、巨大な団地がいずれは農村部からの工業地帯への出身者によって埋められ、巨大な世界の工場の担い手たちが生活を営むことになると思われる。近隣には地下鉄が開業し、広州市中心部までは最寄り駅から40分程度での通勤圏内となっている。



写真-9 宿舎から望む選手村
手前はバスターミナル

b) 会場への交通機関

宿舎～会場は約70km程の距離にあった。中国の大都市圏内は朝夕の交通ラッシュが激しいとのことであったが、主要な高速道路は大会開催期間中車両1レーンが大会関係者専用規制されていた。このため渋滞による遅延等はなくスムーズな移動が確保されていたが共産国ならではの所業であろう。近年の中国の自動車保有台数の伸びはすさまじいものがあるらしく、年末の新聞によれば北京等を始めとする大都市では車の保有も免許制になると報道されていた。

③ その他

今回の参加期間中、日中合弁企業総経理を務める学生時代の先輩と会食する機会を得た。その際に今回のアジア競技大会に向けた中国の「裏話」を聞くことができた。そのいくつかをここで紹介する。

- 今回のアジア競技大会、**Para Games**の費用は1兆2,000億円であり、国家予算を大きく超過した模様。この不足分は外資との合弁企業へ課税される。
- 空港から市内へ向かう高速道路沿線の集合住宅は、大会開催を前に屋上に一様なオレンジ色の屋根がかけられた。それまでは洗濯物が所狭しと干されるような状況であった。
- 同様に、市内の建設中のビルには**LED**ライトによるイルミネーションが施され、廃墟に近い高層の総合住宅は大会の案内の垂れ幕が一様にかかけられた。
- 大会期間中常にどんよりと曇った空であった。季節的なものかと思っていたが実は光化学スモッグ等によるものらしい。それでも工場の操業は50%に制限されているとのことであり、通常の大気汚染は想像以上。



写真-10 空港から市内への高速道路沿線
このような屋根が延々と並ぶ

今回の大会は私にとって初めての**Para Games**でした。レースにおける競技者の取り組み姿勢と真剣な表情、そして競技終了後のパーティにおける関係者に囲まれた晴れやかな姿、満足そうな表情がこれまでのどんな大会にも劣らず素晴らしい大会であったと感じています。機会があればまたこのような大会で競技するみなさんの支援ができればと切に願います。

最後に「We cheer We share We Win」を合言葉に開催された**Asian Para Games**、次回の韓国でさらに大きな大会となって飛躍することを祈ります。 以上